




2025 年 2 月 9 日		(朝 10 : 30-11 : 30)
聖 日 礼 拝		司会 城尾マコト
前 奏	全員黙祷 「新聖歌 23 番」	ヒムプレヤー
招 詞	ヤコブ書 4 章 7～8 節(新 363 頁)	司会者
頌 栄	「新聖歌 60 番」	ヒムプレヤー
主の祈り	(プログラムに印刷)	全 員
使徒信条	(プログラムに印刷)	全 員
交読文	60 番 ヨハネ黙示録 21 章 877 頁	司会者・全 員
聖 書	出エジプト記 3 章 12 節(旧 76 頁)	司会者
讃美歌	新聖歌 209 慈しみ深き	ヒムプレヤー
祈 祷	司会者による祈り	
	子供達の祝福の為の賛美 484 番	ヒムプレヤー
讃美歌	新聖歌 275 信仰こそ	ヒムプレヤー
メッセージ	「主なる天のお父様」	城尾淳一
讃美歌	新聖歌 428 キリストには代えられません 証とお知らせの時間	ヒムプレヤー
献 金	新聖歌 55 番	
頌 栄	新聖歌 63 番	
祝 祷		城尾マコト牧師
後 奏	全員黙祷 新聖歌 59 番	
<div>    </div> <div> <span>Youtube</span> <span>Facebook</span> <span>HomePage</span> </div>		

## 今週のお話の要約

モーセは若い頃、同胞イスラエル人を守ろうとしてエジプト人を殺し、ミデヤンの地へ逃れました。そこで祭司の家族と出会い、義父エテロのもとで羊飼いとして過ごしていました。ある日、彼は\*\*「神の山ホレブ」\*\*に導かれ、不思議な光景を目にします。

柴(しば)が燃えているのに、燃え尽きることがない-この神秘的な現象の中で、\*\*「主の使い」が現れました。しかし、すぐに「主」\*\*がモーセを呼ばれ、主の使い＝神ご自身の顕現であることがわかります。

このように、聖書ではしばしば「主の使い」が「主」として語ります。

**創世記 32 章：** ヤコブが「人」と格闘し、「イスラエル(神と争い勝つ)」と名付けられる場面

**創世記 16 章：** ハガルが「主の使い」に出会い、「エル・ロイ(私を見ておられる神)」と呼ぶ場面

これは、「主の名をみだりに呼んではならない」(出エジプト記 20:7)という戒めを守るため、直接的な表現を避けたと考えられます。ヘブライ語では「神様」という敬称の概念はなく、「アドナイ(主)」という言葉が用いられるのもそのためです。

**現代のわたしたちはどうでしょうか？** 神様を畏れる心が薄れ、娯楽の中で神様が軽視されることが増えています。礼拝の時だけ神様を敬い、日常では世の価値観に流されることがないように、わたしたちは注意しなければなりません。

**ローマ 12:2** 「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造り変えられ、何が神のみ旨であるかをわきまえ知るべきである」

神様の聖なる性質を理解し、日々の生活の中でも神様と共に歩むことができるよう祈りましょう。

城尾 淳一